

## 期待にこたえる教員を目指して

京都府の教育の指針である「指導の重点」は、「教職員は、教育公務員として公教育に課せられた使命と責任を自覚し、教育関係諸法令を守るとともに、教職に対する愛着と誇りをもち、心身の健康管理に留意して、豊かな人間性、広い社会性及び高い専門性を基盤とした実践的指導力の向上を図り、府民の信託と期待にこたえなければならない。」とその社会的使命について示しています。

新しく教職につかれた皆さんは、職務についたその日から、それぞれの学校（幼稚園を含む。以下同じ）の一員として、一人一人の幼児児童生徒の人格形成に直接かかわる教育活動を展開していかなければなりません。初任者であっても、教職経験豊富な先輩教員と同様の任務を果たさなければならず、非常に責任の重い職業であるといえます。

教員として、また公務員としての自覚と、あふれる情熱をもって、勤務されることを望みます。

### 1 教員の心構え

学校教育においては、知・徳・体の調和のとれた発達を図り、勤労と責任を重んじ、基本的人権を尊重し、国際感覚を身に付けた幼児児童生徒の育成に努め、生涯にわたる学習の基盤を培うことを目標としている。

そのために教員は、幼児児童生徒の生命と安全を守ることはもとより、一人一人をかけがえのない存在として大切にし、教員一人一人が鋭い人権感覚をもち、人間に対する尊厳と教育に対する情熱をもって指導に当たらなければならない。同時に、人間の成長・発達についての深い理解、幼児児童生徒に対する教育的愛情と保育、教科等に関する専門的知識並びに広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力が必要とされ、常に自ら資質・能力の向上に努めなければならない。

また、教育は決して一人の教員の力で完遂するものではない。一人一人が、公教育の推進者であるという共通の認識のもとに、教職員間の好ましい人間関係を確立し、校（園）長を中心に組織的・計画的・継続的に進めていくことが極めて大切である。

### 2 教員の資質能力の 向上と教員研修

#### (1) 必要とされる資質 能力

教員は、未来に向かって様々な可能性を有する幼児児童生徒のよりよい人格の完成を目指し、学校教育の目的を達成するために、専門職としての職務をもって教育に携わり、適切な教育活動を行う責務を負っている。教員の専門職として必要とされる資質能力は、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性であり、常に強い使命感をもって自らの資質能力の向上に努め、府民の信託と期待にこたえなければならない。

## ア 豊かな人間性

人間性の豊かさは、教員自身のこれまでの生き方や今後の生き方にかかわるものである。

子どもを慈しみ、共に喜び、共に悩み、共に考え、積極的に働きかけるという教育者の情熱と学校の内外を問わず豊かな人間関係を築き、教員自身が一人の人間としてよりよく生きるために、常に積極的に自己変革をしようとする主体的な姿勢をもつことが必要である。

## イ 広い社会性

変化の激しい時代の中で、社会を見つめる広い視野をもち、社会の変化や時代のニーズを的確に把握し、対応するためのしなやかな感性を身に付けなければならない。

特に、多様に変化する子どもや保護者の価値観に適切に対応することによって信頼関係を築くことが必要である。幼稚園という組織の一員として協働するとともに、地域社会と双方向のつながりをもち、連携していくことが重要である。

## ウ 高い専門性

幼稚園教員の専門性とは、幼児一人一人の内面を理解し信頼関係を築き、集団生活の中で発達に必要な経験を幼児自らが獲得できるよう環境を構成し、活動の場面に応じた適切な指導を行う専門的・実践的指導力のことをいう。

その際、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことに留意することが必要である。

幼稚園教員に求められる専門性のうち重要なものとして以下のことがあげられる。

### 幼児理解・総合的に指導する力

幼児の発達段階や発達過程を内面から理解し、生活の中で示す姿を共感的に受容する幼児理解とともに、総合的な発達を促すため主体性を引き出し、遊びを通して総合的に指導する力が必要である。

### 具体的に保育を構想する力

一人一人の発達段階と個別の状況に応じて、計画的に多様な生活体験、自然体験、交流保育など具体的に保育を構想し、実践する力が必要である。そのため教員自身が豊かな体験を積極的に積むことが望まれる。

### 得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性

具体的に保育を想定し総合的な指導を展開するに当たり、基本的な力を身に付けた上にそれぞれの得意分野を有することが求められる。また、教員同士がコミュニケーションを図り、協働関係を構築し、園全体として教育活動を展開していくことが大切である。

### 特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力

発達の側面から一人一人への対応は重要である。障害のある幼児の指導に当たっては、障害の種類や程度等の対応に関して必要な専門的知識や技能を習得する必要がある。また外国籍の幼児については、言葉や文化の相

違を理解した対応が必要である。

小学校や保育所との連携を推進する力

幼稚園と小学校が連携し、幼児期から児童期への移行を円滑にし、一貫した流れを作るため、子どもに対する共通理解を行い、教員間、幼児・児童間、保護者間の交流を進めるための企画力や実行力などが必要である。また保育所との相互交流や合同研修など研修成果を踏まえた能力の発揮も求められる。

保護者及び地域社会との関係を構築する力

幼稚園は、地域の幼児教育のセンターとしての機能を発揮し、未就園児の親子登園、子育て相談など子育て支援活動が求められている。これらの対応に当たってはカウンセリングマインドをもち、保護者たちの悩みを受け止め、円滑にコミュニケーションする力が必要である。

人権に対する理解

教員は、人権問題についての正しい理解や認識に基づき、幼児が互いを尊重し、社会の基本的なルールが存在に気付き、それに従った行動ができるような素地が身に付くように指導する力が必要である。

幼児を取り巻く環境の変化を踏まえ、学校教育や生涯発達の見通しをもった幼児教育の専門家として、自ら学び続ける意欲をもち、社会の変化に的確に対応して、自ら設定した課題の探究に努め、常により高い専門性を身に付けなければならない。

## (2) 教員の研修

### ア 研修の必要性

教員としての任務を遂行していくためには、高度な専門的知識や技術を身に付け、その識見と人間性を常に高めていくことが重要である。

また、教育に関する理論や方法は、固定されたものではなく、時代が進むに伴い進歩し、変化するものである。したがって、絶えず新しい知識や技能を学び、身に付ける努力がなされないと、社会の要請にこたえた適切な指導をしていくことはできない。新しく教職につかれたみなさんは、教育の専門家としての出発点に立ったことを自覚し、自らを謙虚に省みてあらゆる機会をとらえて研修し、その専門家としての力量を高めることに努めなければならない。そのためには、絶えず研究と修養に励み、実践的指導力の向上、教員としての使命感を高めるとともに、豊かな人間性の涵養を図ることが重要である。

## イ 研修上の留意点

教員研修の成果は、教育内容を充実させて幼児児童生徒の指導に生かされ、次の研修へと発展していくものでなければならない。

研修に当たっては、次のようなことに留意する必要がある。

日頃から学校（園）や自分の教育課題を明らかにし、目的をもって研修に参加すること

校外（園外）で行われる研修日の教育計画について、校内（園内）で十分に連絡・調整を図り、保育、学級の指導などに漏れがないように留意すること

研修成果を自らの教育活動はもとより、校（園）内研修会等に生かすこと

## 3 社会人として

教員は、職業人・社会人としての基本的なマナーを欠くことのないよう留意したい。

### 基本的な留意事項

身だしなみ

言葉遣い

電話の対応

来園者への応接態度

あいさつの仕方

幼稚園外での社会規範

思慮を欠いた行為や不用意な言動は、幼児児童生徒や保護者の信頼をそこない、教員の資質を問われ、場合によっては、その教員ばかりが学校（園）の信頼まで失ってしまうことがある。常に人間としての品位の向上に努める姿勢をもち、社会人として、教育者として信頼されるよう心がけねばならない。

#### 4 教員の一日

幼稚園における一日の流れを追いながら、基本的な仕事の内容や留意点を簡潔に述べると、次のとおりである。これらに留意して毎日を充実させることが大切である。

日 程	教 員 の 活 動	留 意 事 項
出 勤	余裕をもった出勤	適切な身だしなみを心がける。 急用、急病時は早期に連絡する。
幼 稚 園 に 着 い て	出勤簿への押印 一日の仕事の段取りと準備 幼児の登園状況の把握と指導 欠席や遅刻等、必要に応じた家庭との連絡	さわやかな朝のあいさつをする。 保育室内外の環境への気配りを忘れない。
職 員 打 合 せ	一日の流れ、指導のポイントの確認 連絡、確認事項等の確実な把握 幼児理解のための情報交換	メモを忘れずに取る。
保 育	幼児の実態把握 保育環境づくり 安全への配慮	幼児の主体的な遊びが確保され 自己を表現し、存在感を実感できる場として環境を構成する視点をもつ。 ・幼児との心のふれあい ・環境、雰囲気に対する配慮
放 課 後	保育室の清掃 一日の保育の反省、保育記録 幼児理解のための情報交換 分掌事務 保育研究 諸会議 保護者への連絡 明日の保育を見通した指導案の作成 環境構成の工夫	一日を振り返り、明日の準備や保育研究のために放課後の有効活用を図る。 「教育課程に係る教育時間の終了後に希望する者を対象に行う教育活動」に当たって、次のことに配慮すること ・教育課程に基づく活動との関連 ・幼児の心身の負担 ・家庭との緊密な連携
退 出	身の回りの整理整頓 使用保育室の戸締まり等	帰途における交通安全や持ち物の管理には十分気を付ける。

#### 出張

事前に余裕をもって手続きや準備をし、幼稚園に帰着後は速やかに報告等を行う。

出張伺、代行計画・時間割変更等の手続き  
時間、場所等の確認  
報告書の作成等